たちばな新聞

橘苑　睡蓮堂
水谷山 寶清寺
橘苑 睡蓮堂 たちばな会館

平成二十五年 新春を迎えて

お正月といえば鏡餅をお供えする習慣があります。では、なぜ飾るのか、そもそも、その年の新たな「いのち」や「福」をもたらす歳神さまが、大晦日に家々に訪れると考えられていました。その「いのち」や「福」を「魂」といい、歳神さまから与えられるので、「歳魂」といいます。この「歳魂」を形にしたのが鏡餅なのです。

鏡餅に魂を蓄え、家族でいただいてその力を身体に取り込むという考えもあります。お正月には、鏡餅をお供えして、家族みんなで歳神の力を身体に取り込み善い行いを積み重ね新年から幸福が訪れるようにしたいものです。

聞運聖人遺訓 第三十一回

「花は開きて果となり、月は出でて必ず満ち、燈は油をさせば光を増し、草木は雨ふればさかう。人は善根をなせば必ずさかう。」

（上野殿御返事）

このお手紙は、お供えに対するお礼状で、善い行いを積めば幸せになれる。この善根を積む事が大切だと教えて下さっています。全ての人間は両親の血を受けてこの世に生まれます。その親達もまた父母からの血を受けてこの世に生存します。このご先祖から綿々と繋がる命の連鎖を大切にお祀りすることが肝心です。亡くなった人は魂となり、現世に存在し続け、縁あるものを見続けてくれます。先祖供養の善根は必ず花開きます。

⁉仏事Q&A 第八回

Q　葬儀や法事の時、お焼香をしますが、いつ頃から始まった習慣で、何故、お焼香をするのですか。又、お焼香の回数は何回が正しく、宗派によって違いはあるのですか。

A　お香は香気に富んだ木片・樹脂・根・葉・花果等で作られた薫物を総称した言葉で、インドにおいて発達し、中国に仏教と共に伝来したのは南北朝時代（一世紀前半）と言われています。

日本におけるお香の起源は諸説ありますが、恐らく、「日本書紀」に推古天皇三年（五九七年）四月、「沈水」淡路島に漂着とあり、「聖徳太子伝暦」や「水鏡」に同様の記述があることからこの頃と思われます。この漂着した木片は長さ二・四メートルもあり、島の人々は香木とは知らず薪として焚くとすばらしい芳香を放ったので驚き朝廷に献上した。この木片を見た聖徳太子は、ただちに「沈香」であると理解され、沈香木で観音像を作り、比蘇寺に祭ったと伝えられています。

お香は遣唐使を始めとした中国との頻繁な往来により、盛んに持ち込まれて以来、千年以上経過した現在まで、お香はさまざまな形で私達の生活に深く結びつき発展してきました。

このようにお香の普及は飛鳥時代に仏教が伝来して以後の仏教文化の定着が大きく影響を与えています。

元来、仏前を清め、諸仏に祈願を込める儀式である「供香」として用いられていましたが、時代の推移とともに「勵物」が王朝の暮らしに潤いを添えるようになります。その後、互いの香を競い合う「燻物合」が変化し、天然香木をもって行う「香合」に展開していきます。この風雅な遊びが後の「香道」の源となって行きます。

仏伝によると、釈迦がある時、沙弥に「戒・定・慧を備えた香を薫じ、室内を清め、その芳香の中に身を投じて気分を落ち着けいろな国の家族と交流をもったようだ。日本人の家族も多く来ていた。急に子供

住職ひと口法話（第三十一話）

昨年、大津のいじめ事件を契機にいじめ解消に向けて、父親の学校教育への関わりの強化や、いじめた子にリーダー的役割を与えるなど、様々な工夫や取り組みがなされ、教育に世間の目が向けられたことは大変良い傾向だと思う。また、大津事件を機に朝日新聞に「いじめられている君へ　いじめている君へ　いじめを見ている君へ」と題して著名人が執筆していた。その内容が一冊の本になって朝日新聞出版から九月に出版されるなど、世間の関心が「いじめ問題」に向けられた。どれも、参考にすべき良い取り組みだったり提言だったりする。しかし、それだけでいじめはなくなるのだろうか。もっと根本的に改善をしなければならないことがあるのではないだろうか。昨年夏にハワイに行った人の話で気づいた事がある。その人は英語が達者で、子供連れだったこともあり、アメリカ人や台湾人などいろを怒る声がした。その時、台湾人の親が「こどもを怒っている方を見ると必ず日本人だね。何故、日本人はそんなに子供を怒るの」と言ったそうです。今の親は子供を自分の持ち物のように、自分の思う子供に育てようとしているかのようにいちいち細かく怒る。子供は家で親の気に入るような「良い子」でいないと怒られる。そのストレスを学校で発散する。その発散は弱い子や、ねたましい子に向けられる。昔からいじめはあった。しかし、昨今のいじめの陰湿さは、親が子供を管理し細かいことまで怒る事で、子供の社会性と自立を阻害しているのではないかと感じた。学校から帰り、塾に通い、有名大学に入りエリートコースを歩み出す若者も多い。しかし、中には人間的に欠陥を持ったバランスの取れていない人間も多く見られる。親が子供を、大きなフレームの中でのびのびと育てる意識を持たないと、子供の家庭でのストレスはなくならず、自立性も育たないのではないだろうか。

私は、「踊子」と聞いて、連想するのは、電車の名前と、川端康成の「伊豆の踊子」です。「伊豆の踊子」は何度か映画化されています。懊悩する青年が伊豆を旅し、そこで旅芸人の一行と出会い、人情の温かさを感じる物語です。踊子の娘が頭に小さな獅子の面をかぶり、太鼓や笛を吹きながら舞っている姿と、姫踊子草の形が重なって見えて愛らしく感じられます。

踊子が群れをなして踊っている姿を想像して、観察してみてはいかがですか。

邪気を払い、無心の境地になって、一心に祈念しなさい」と言われたとあります。

また、仏教の経典には香に触れた部分が多く、特に香を焚くことにより、

一　精気を増益　　二　身体を芳潔
三　温涼を調適　　四　長寿
五　顔色を良好　　六　心神を悦楽
七　耳目を清明　　八　身体強壮
九　愛敬の増幅　　十　大威儀具備

の十種類の功徳を上げています。

以上、お香の歴史は古く、お香は仏前を清め、諸仏に祈願を込める儀式に使用されてきただけでなく、日本では「香道」として発展してきました。

お香の効用については、奈良時代、鑑真和上が日本にたどりついた時の荷物に、病気の治療に使うために、沈香や白檀が詰め込まれていたようです。

鎮静・解毒・健胃薬として有効だそうで、現在でも、「六神丸」や「寄応丸」に沈香が使われているようです。香の香りには、経典に示されている効用の他、最近の研究では、「お香には人間の心に働きかけて、情緒をゆり動かす作用があることが分かってきたらしい」。なぜ、効果があるのかは、まだ、はっきりと分かってはいないようですが、少なくとも心身症などの治療に役立つことが分かってきたようです。

法事の時のお焼香の回数は三回、会葬者が多いときは一回、宗派によって変わることはありません。火葬場や葬儀式場などでお焼香をされる機会が多いと思いますが、場所によっては、ただ、煙が出るだけの粗悪な抹香を使用しているところがあります。当山では、仏前を清めご先祖の霊をお慰める大切な儀式なので、最高級のお香として珍重されている「伽羅香」を混ぜた香りの良いお香を使用しています。ご法事や行事の時、お楽しみください。

仏様の履歴書

戦国時代に、越後の虎と呼ばれ、天下無双と呼ばれた上杉謙信という武将がいる。謙信は、毘沙門天を崇拝し、旗印にも「毘」の一文字を使ったことでも有名である。言うまでもなく毘沙門天は、仏教の守護神であるが、如来、菩薩、明王につづく「天」という扱いで、毘沙門如来や毘沙門菩薩とは言われない。

「ビシャモン」はインド語のヴァイシュラヴァナから来ている名で、日本語に訳すと「よく聞く所の者」となり、別名・多聞天とも言われている。本来は財宝の神であったが、中国に毘沙門様が伝わると、武将の姿になってしまった。

天上界の中心に須弥山があり、この頂上にはなく、法華経を信奉している檀家や信徒も心まれる。宝清寺では、祈願所として本堂右側に鬼子母神堂があり、身体健全、交通安全などの祈願をするときは、こちらで御経をあげ祈願する。

宝清寺の本堂正面外側の一体が毘沙門天である。御参拝の折には、毘沙門様をみつけていただき、財福招来、家内安全の祈願をしてからお帰りください。

日蓮宗では修行者の守り神として大切にされている。修行者とは、なにも荒行をしている修行僧だけを言うのではなく、法華経を信奉している檀家や信徒も心まれる。宝清寺では、祈願所として本堂右側に鬼子母神堂があり、身体健全、交通安全などの祈願をするときは、こちらで御経をあげ祈願する。

宝清寺の本堂正面外側の一体が毘沙門天である。御参拝の折には、毘沙門様をみつけていただき、財福招来、家内安全の祈願をしてからお帰りください。

管理料のご案内

お檀家皆様におかれましては、ご先祖様供養ご喜徳に存じます。

昨年中に平成二十四年度分墓苑管理料の納入がまだお済みでない方、管理料納入をお忘れの方にご案内申し上げます。

墓苑管理料は墓所共有区域である通路、休憩所、駐車場や水場等の管理費として使用させて頂いておりますので、ご理解の上、ご納付くださいますようにご案内申し上げます。なお、ご入金方法に関しては、二通りの方法がございますのでご案内させていただきます。

一、管理料をご持参頂く場合

ご持参頂く場合は、翌年度分を毎年三月末日までに納付いただく前納制となっております。今年三月末日までに納めた分は平成二十五年度分（四月一日から三月末日分）です。

二、自動振替をご利用の場合

自動振替を利用される場合は、「ゆうちょ銀行」の口座が必要です。口座をお持ちでない方は開設していただく必要があります。また、所定の用紙に記入され、「ゆうちょ銀行」に提出して頂くだけで簡単に手続きが済み、毎年自動的に引き落としされますので、遠方の方には殊に便利です。申込用紙は当寺で用意してありますのでご利用ください。

振替日は毎年四月二十五日前後を予定しております。

詳しいことは、當山寺務所までご相談ください

年末年始のお札

お釜締札「台所の神様・三宝荒神」、「お手洗いの神様・ウスサマ明王」、「幣束」等のお申し込みは二月の節分まで受付ております。

また、二月三日の節分には、星祭、星九曜、厄除け祈願を行います。

あわせて、交通祈願を行いますので、自動車を乗用される方や、本年の星回り（運気）が悪い方、本年が前厄・後厄・本厄の方は、一月末日までにお申し込みください。

厄年の見方は、「日蓮宗御寶鑑」等に記載されています。

「日蓮宗御寶鑑」には、本年の吉凶だけでなく、毎日の指針をしめす二十七宿が掲載され、縁談や移転などの目安にもなります。

詳しくは宝清寺寺務所まで問い合わせください。

宝清寺の草花

皆さんは「姫踊子草」（ひめおどりこそう）という名をご存じでしょうか。可愛らしい名前で、名前だけでイメージすると、可憐な花のようですが、雑草扱いされている草花です。確かに、河原でも日陰でもどこでも成長し、群生することから雑草扱いされるのでしょう。

姫踊子草は、紫蘇科で、葉は青から紫色に変色し、小さいピンク色の花をつけます。

編集後記

信仰において、一般に「迷信」と混同されて考えられている方を多くみかける。例えば、火葬場での行き帰りの道を変える。葬儀の日に家に掛かっている額縁は半紙で隠す。棺は玄関から出さない。葬儀の時、箸は左手で持つ。四十九日までは仏壇を閉めておかなければいけない。など数え上げればキリがないほど、仏教とは関係がない「迷信」が実しやかにささやかれている。

このような「迷信」を年配の方は、ロづてに聞いて信じて来られた。一方、若者は逆に信じることを拒否する傾向が顕著である。

しかし、「迷信」だと言って片付けられないこともある。その一例が「夜、爪を切るな」などは、理由があり、「世を詰める」に通じるので縁起が悪いと言われ、暗い夜に爪を切ると深爪になるのでよしたが良いと言われる。また、敷居を踏むのは、父親の頭を踏むのと同じだと言う。これも一概に迷信として片付けられない。敷居を踏むと、木がたわみ、家を傷つける原因になり、結果として父親の頭を悩ますことになる。

このように考えると「迷信」だといって簡単に片付けられない「言い伝え」がある。盲信することは良いことではないが、年配の言われることには一理あると思う。また、その真意を見極める力を、身につける必要が大事ではないだろうか。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四一一五五八一一六六三
FAX・〇四一一五五八一一六九三
インターネットホームページ
http://www.abauone-net.jp/housei/
メールアドレス
housei@ac.auone-net.jp

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人の命日（お会式）を、毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓い、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

御祈願・御供養

交通安全
商売繁盛
虫除封じ
開運祈願
安産祈願

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始頭会
八月二十日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十月十二日	小松原法難会

宝清寺の年中行事

三月彼岸中日	塔婆供養
四月八日	花祭り
七月十七日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	塔婆供養
十月十二日	お会式法要